

令和元年度第2回

京都府独立行政法人高齢・障害・求職者雇用支援機構運営協議会

近畿職業能力開発大学校京都校部会 開催概要

1. 開催日時

令和2年2月7日（金） 11:00～12:30

2. 開催場所

京都職業能力開発短期大学校2号館2階会議室（舞鶴市上安1922番地）

3. 主な議題

（1）令和元年度の業務実施状況について

（2）令和2年度の業務計画について

4. 議事経過

資料に沿って、事務局から説明が行われた後、意見交換が行われました。各委員からの主な意見は以下のとおりです。

○生産技術科の応募が増え安心している。地道に訴求効果のある対象にきっちりと絞り込んで取組された結果だと感じた。地元で就職できるよう、出口の部分までしっかり進路指導を行ってほしい。

○応募者数は、どこかが増えるとどこかが減る傾向にあり波があるが、現在の取組を継続してほしい。

○地元地域に就職してもらうために、進路指導についても丁寧にやっていく必要がある。

○高校生や保護者に「ものづくり」のすばらしさをどのように訴えていくのか、京都校の取組を参考にさせてもらいたい。

○今年度は様々なところで京都校の広報を見る機会があり、見やすく可愛らしく柔らかい雰囲気を目を引くものが多かった。その取組が結果につながっていると思う。募集活動に特効薬はなく、余程の目玉がないと難しく、地道な取組、細かい取組が必要ではないかと感じている。

○応募者確保の取組に関して、地道だが精力的に取り組んでいると感じた。中小企業の製造業の現場では、人手不足の中で生産性を求められる一方で、親会社や協力会社から技術的対応を求められることが多い。できれば、授業の内容をもう一段階上げて即戦力の人材を育成してほしい。

○オープンキャンパス参加者数が相当数増えており、並々ならぬ努力の結果だと思う。大学等では学生の取り合いになっており、オープンキャンパスに来てもらうことの難しさを実感している。また、訪問する高校の件数を増やしたことが結果につながっていると思う。

○オープンキャンパス参加者がどれだけ受験し、入校しているか分析をしたら次につながるのではないか。

○3年生をターゲットにした活動を重点的にした上で、その学年より下の学生や中学生、その保護者等へのアプローチも地道に取り組んでいくような中期的視野も重要である。

○女性や普通科の生徒を如何にして取り込むか、定着率を如何にして上げるか、大学進学率や保護者の意向等も意識した取組が必要である。

○京都校を卒業した学生は地域産業にとって貴重な人材である。奨学金制度は、地元で就職してもらうことを期待して設けられた制度であり、「舞鶴市の思い」である。来年度も制度は継続するので、地元地域に根を張ってもらえるような進路指導をお願いしたい。



近畿職業能力開発大学校京都校部会出席委員名簿

(敬称略)

氏 名	所 属 及 び 役 職 名
吉 田 周 史	京都府立福知山高等技術専門校 校長
長 柄 俊 治 (欠 席)	日本労働組合総連合会京都府連合会北部地域協議会 議長
西 山 隆 成 (欠 席)	舞鶴商工会議所 専務理事
山 口 靖 弘	京都府中小企業団体中央会 理事・事務局長 兼 北部事務所長
寺 田 昭 夫	丹後機械工業協同組合 事務局長
荒 賀 誠 (欠 席)	一般社団法人綾部工業研修所 代表理事 日東精工株式会社 取締役
田 中 政 旭	舞鶴工業集積協議会 会長
福 原 早 苗	京都府商工労働観光部人材開発推進課 課長
八 田 美 映 子	舞鶴公共職業安定所 所長
瀬 川 治 《座 長》	舞鶴市産業振興部 部長